

# 「最後の卒業生であることに誇りを持って大空を 羽ばたいてほしい」……吉高卒業式ではなむけの言葉

98年の歴史を持つ県立吉川高校の卒業式が3日、同校体育館で行われました。吉川高校としての卒業式は最後です。卒業生、保護者などのほかに、学校に係わりのあるひとたちにも案内状が出されました。卒業生は48名、在校生はいうまでもなくいません。

式辞で山田校長は、「最後の3年生の最後の1年間は実に見事でした。体育祭や文化祭など例年と違った盛り上がりを見せ、成功させてきました。でもその裏には、PTA役員、同窓会のみなさん、地域のみなさんなどからの力強いご支援があったことを忘れてはなりません。みなさんは、これから本格的な旅に出ます。嵐の日も晴れの日もある。明日という日を信じて、夢と希望を持って歩み続けてほしい。吉川高校の伝統の力は雑草のような底力です。自分を必要以上に追い込めないでください。自分自身は世界にひとつです。自分自身を大切にしてください。歴史のある吉川高校の最後の卒業生であ

ることに誇りを持って大空を羽ばたいてください」と卒業生にはなむけの言葉を送りました。そして最後に、「98年間、ご支援くださったみなさんに敬意をもって感謝申し上げます」と結びました。ここに響く最後の式辞でした。

## 地域に愛された高校でした

在校生がいないので、在校生からの送る言葉は無し。「卒業生の言葉」をのべたのは、上野英里佳さん（吉川区国田）です。上野さんは、「新入生の入ってこない学校生活をさびしく感じたこともありました。1年前、3年生を送った後は、私たちだけ。不安もありましたが、周りの方々が応援して下さいました。例えば体育祭、職員の方がグラウンド整備をやり、保護者の皆さんがおにぎりやトン汁の差し入れをしてくださいました。保育園児の声援もうれしかったです。最後のロードレースでは、地域の人たちがたくさん応援に出てくださいました。地域に愛された吉川高校であることを肌で感じる事ができました。閉校になるのはさびしくてたまりません。少人数で受けた教育は98年の教育の集大成だったと思うと頭が下がります。この先、ここで学んだことを忘れず、くじけることなく一歩一歩あゆんでいきたい」とのべました。涙が出そうになりました。（写真下は校歌を歌う卒業生）



卒業記念合唱で歌われた曲は『終わらない旅へ』。「素敵な笑顔で きっと忘れない 時が流れても…」あたりからすすり泣く声が聞こえました。

## 吉川中は涙の卒業式

吉川中学校の卒業式は5日でした。木の実谷の高台から巣立っていったのは49名の3年生です。

在校生からお祝いと激励の言葉をもらった後、卒業生を代表して石田望さん（代石）が挨拶しました。「3年間、いろんなことを学び、貴重な経験をしてきました。困ったときには、いつも先輩たちが温かい手を差し伸べてくれました。そして、共に支えあい、高めあう仲間をつくることができました。この3年間感じたのは仲間の存在の大切さです。私たちは、いま、未来への第一歩を踏み出します」。

卒業記念の合唱を終えて、卒業生が退場する時、笑顔の人もいましたが、目を赤くはらしていた卒業生が多かったですね。



（写真下は校歌を歌う卒業生）

〈新年度予算についての日本共産党上越地区委員会の要望と木浦市長の回答の(2)〉

●高齢者外出支援事業のタクシー券について

① 70歳から支給していただきたい。

② 介護認定者も対象にして欲しい。

〈回答〉

高齢者外出支援助成事業は、閉じこもりによる体力低下や認知症の予防などを目的に、平成15年4月から介護保険特別会計の事業として実施しております。この制度は、第1号被保険者のうち、介護サービスを利用されていない方への還元という観点から第1号被保険者の保険料を財源とするとともに、対象者はひとり暮らしまたは高齢者世帯の要介護・要支援認定を受けていない80歳以上の人に限定させていただいております。

今年度からはバスの利用も助成対象とするなど、一部拡充いたしました。介護保険制度の見直しにより財源の負担割合が変わったため、制度導入時の介護保険料の還元という意味合いが薄れるとともに、高齢者の交通手段の確保に対するニーズが高まってきていることから、現在、更なる拡充に向けて検討を進めているところであります。

今後も市民ニーズを的確に把握する中で、高齢者が安心して暮らしていけるよう意を用いてまいりたいと存じます。



2月29日に春一番が吹いてマンサクの花が開き始めました。昨年は2月8日開花でしたので、21日遅れです。今年はそれだけ寒かったということでしょうか。

●公立保育園の耐震補強工事は、予定どおり、平成20年度までに完了していただきます。

〈回答〉

市内の公立の保育園50園のうち、耐震診断が必要な施設は28園ありましたが、平成18年5月末にすべての施設の診断が完了し、その診断結果に基づく耐震補強設計は、今年度までに18園が完了しております。

また、こうした調査設計の結果、必要となった耐震補強工事については、今年度までに7園が完了し、耐震診断の結果支障なしとなった3園を含め、10園(35・7%)が耐震補強済みとなっております。

公の施設の耐震補強工事については、保育園や小中学校など児童施設を優先的に行うこととしておりますので、限られた予算の中ではありますが、残り18園の保育園についてもできるだけ早期に完了するよう努めてまいりたいと存じます。

●保育料が高く生活を圧迫しているの、もう少し下げるなど、軽減してください。

〈回答〉

保育料につきましては、市町村ごとに様々な軽減措置をとっておりますが、当市では、所得税階層区分の細分化や保育料の軽減のほか、同時在園が3人の場合における第3子の保育料の無料化や、第3子以降の児童が3歳未満児で在園している場合における当該児童の保育料無料化を行っております。また、今年度では、税制改正の影響で保護者の皆さんの負担に変化が生じることのないように保育料徴収規則で定める保育料表の見直しを行い、20年度においても、今年度と同様に意を用いてまいります。子育て世代の保育料など経済的負担の軽減は、平成16年度に実施した市民ニーズ調査においても要望があることから、当市の財政状況や社会情勢などを総合的に勘案し、引き続き検討してまいりたいと考えております。

●学校給食における地場産食材の利用を更にすすめること。その場合、生産者の顔が見える工夫を強め

ること。

〈回答〉

学校給食における地場産食材の利用は、これまで可能な限り進めてきているところですが、その利用率はなかなか向上しない現状にあります。

野菜については、地元生産者やJAとの連携が図られ供給ルートが確立している学校は利用率がおおよそ10〜20%、その他の学校は10%未満となっております。また、地場産コシヒカリを除くその他の食材については、地元産がごく少ないことから、全校で低い利用率となっております。

今後は、野菜については、生産者と直結した供給ルートを1校でも多く確立できるように関係機関と共に取り組むとともに、その他の食材については、納入業者や生産者に学校現場の要望を伝えながら、地元産食材が少しでも多く使用できるように働きかけをしてまいりたいと考えております。

●学校給食調理部門の民間委託を中止し、直営に戻すこと。

〈回答〉

「第3次上越市行政改革大綱」では、市が責任を担うべき事業のうち、市民へのサービスを維持しながら、市職員以外が直接執行できる業務を委託し、経費の削減や職員数の削減に努めることが定められ、その中に学校給食調理業務が位置付けられております。この方針に基づき今年度は1校で民間委託を開始し、これまでの検証の結果、従来と同等のサービスを維持しながら、およそ800万円余りの経費削減が見込まれております。

今後も自主自立の財政基盤を確立し、最小の経費で最大の効果を上げる行政運営を実現することを目的とした行政改革の観点で学校給食運営も考えていく必要がありますので、民間委託に当たっては、児童生徒に安全安心な給食を提供することを大前提としながら、新潟労働局からの指導も踏まえ、より適正な委託業務となるように意を用いて進めてまいりたいと考えております。

次号に続きます。